

神戸市会 会議録

2007.09.25 : 平成 19 年総務財政委員会 本文

(一部抜粋)

75 : 委員(北山順一)

委員(北山順一) 今いろいろ大学のあり方ということについてご意見たくさん出てますから、私も常々言ってますサテライトという形で、6大学1高専 今、5大学1高専ですか、そういうふうな形になっておりますけれども、サテライトという形でもっとどんどん出ていくべきだということを私は言っていました。今の大学の状況なんかは、関西の大学は名古屋、東京へどんどん出ていってますから、5大学1高専と言われる西区にあるあの大学はユニティがある。あのユニティでいろんな活動をしておるんだということで満足してもらったら、私はもうとんでもないことになるだろうと、こういうふうに思っております。

公開講座について、1点お伺いしときたいんですが、公開講座の受講生の数、神戸外大の受講生の数はふえつつあるのか、減りつつあるのかということについて、はっきり聞いておきたいと思います。

それから、そういう公開講座をしたって、西区や垂水区や須磨区ぐらいまでしか来ませんわとか言ってますけれども、私は公開講座そのものの魅力に欠けるのではないかなと思っておるんです。いつもいろんな大学から、そういう公開講座の案内を私どもは取り寄せております。取り寄せておりますから、魅力のある講座にはぜひ行きたいと、こう思って見ておりますけれども、神戸外大からもいつも送ってもらっておりますけれども、何でこういう公開講座になるのかな、講座自身がもう少し魅力のあるものにならないのかなというて、私どもは思っておりますが、当局はそれが魅力のある公開講座なんだと思っておるから、ああいう講座をやっておるんだろうと思いますけれども、講座のあり方については一回考えてもらいたいなと思います。私ら神戸大学の農学部がやる公開講座やとか、工学部がやる公開講座だとかいうのを見せてもらいますけれども、私から見て魅力ある講座ですし、その講座にきちっと出れば、講座受講証明書というようなものが出てきて、おれは8枚になったんだ、おれは9枚になったんだと、皆お互いに言ってますよ。そういうふうなことを考えていくときに、僕は神戸外大の公開講座の受講生は減りつつあるのではないかなと思っておるんですが、それは大丈夫でしょうか。

76 : 岩畔行財政局参与

岩畔行財政局参与 北山先生のご指摘がちょっと痛いんでありますけど、中身をよう考えるというご指摘で、まさにその受講生の数は、トレンドとしてふえているか減っているかじゃないんです。テーマをセットした瞬間ふえたり減ったりしてます。例えば、これ10年間のデータ、ここの手元にあるのですが、平成9年度は「世界は日本をどう理解したか」というような、大上段へ振りかざしたテーマで、各外国語を研究されている先生が連続講座やったんだろうと思うんですけど、これはもう835人も来ていただいたんですが、ところが、平成14年度に「新学問のすすめ」などというテーマを それがいいのか悪いのかは別にしまして セットして連続講座やりましたら、何と340人減っているということなんですね。ちな

みに、10年間数字を申し上げますと、9年度の先ほど申し上げました835、次の年は676、633、351と減って、今度また481とふえまして、15年になりましたら768とか、そういう乱高下している。これは一体何なのかというと、やっぱりテーマの設定かなと思ってます。

実は、我が方のこれ、組織の中では研究所グループというのがやってまして、研究成果を社会に還元していこうという活動の一環で、私どもの市民講座は続けておるんですが、研究所も体制として充実をさせていただいておりますので、ぜひともこういったプログラムの組み方も、これから先生ご指摘のように工夫して、できるだけ多くの方に来ていただこうと。電車代が高い、時間がないと言わんように、中身で勝負をしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

77： 委員（北山順一）

委員（北山順一） 1点要望します。そういう中身、十分検討していただきたいなと、こういうふうに思っております。神戸市は今、これからデザイン都市を目指すんだと言って大きな看板を上げております。デザイン都市を目指すということになれば、西区にある芸術工科大学、これなんかはもうその最高点に立って、第一線に立ってやらしてもらわなければならないと思いますけれども、それぞれの大学だって、それぞれの大学自体がデザイン化していくべきときだと、こういうふうに私思っておりますので、神戸外大だって、このデザイン都市を目指す神戸において、神戸外大はどんな役割を果たせるのかというようなことも1つテーマに取り入れて、これから研究していただきたい。このことを要望します。

78： 委員長（大井としひろ）

委員長（大井としひろ） ほかにございませんか。
(なし)

79： 委員長（大井としひろ）

委員長（大井としひろ） そうでしたら、次に、この際、秘書室及び行財政局の所管事項について、ご質疑はございませんか。

80： 委員（北山順一）

委員（北山順一） 1点伺いたしますが、自動車関係の税金の中で、原付というバイクですね、あれの税金は神戸市が全部取れるんでしょうか。神戸市に入ってるんですか。

81： 小柴行財政局長

小柴行財政局長 軽自動車税ですかね。

82： 委員（北山順一）

委員（北山順一） いやいや、バイク、原付という。ナンバープレートに長田だとか兵庫だとかいうて

区ごとに出しようでしょう。

83： **小柴行財政局長**

小柴行財政局長 軽自動車税の話ですね。

84： **委員（北山順一）**

委員（北山順一） あれ、軽自動車になるの。バイクも軽自動車。

85： **小柴行財政局長**

小柴行財政局長 ええ、市の方に入ってますけど。

86： **委員（北山順一）**

委員（北山順一） 入ってますか。そこで、ちょっとお伺いしたいんですけども、あのナンバープレートは、それぞれの都市あるいは区で自由にデザインできるはずなんです。自由にデザインできると、私はよその都市を見てきて思ってるんですが、その点は考えたことあるんでしょうか。

87： **深尾行財政局主税部長**

深尾行財政局主税部長 まず、先生のおっしゃった50ccの原付でございますけども、これは道交法の基準でなくて、神戸市の市税条例で、税金を払っているということで、付票つけたいう形であれをしているわけです。ですから、普通自動車とか、陸運局というか、そちらの方でもらうやつじゃなくて、いわゆる市町村で各市で出しております。模範的な国の方で準則という形で、こういう形に下さいよというのは全国的に決まっていますので、それに準じた形で、それぞれの自治体の条例でナンバープレートをつくっているという状態でございます。ただ、先生おっしゃったように、それぞれのプレートにどういった形でユニークなものができるかどうか、今のところはこうした検討はしておりません。

88： **委員（北山順一）**

委員（北山順一） 深尾さんに一回検討していただきたいと思うんですが、道後温泉、松山、道後温泉。あそこで作家で有名な人おりましたでしょう、「坂の上の雲」という作家。道後温泉が今まで松山市という名前で看板、看板じゃないわね、ナンバープレート出しておったんですけども、今あそこの原付の車のナンバープレートはみんな雲の形をしていますよ。雲の形。ちょっとインターネットで見てもうたって、こないして出てきますよ。雲、空の雲ですよ。巣を張るクモと違う。それで、私は各区が、神戸がデザイン都市という看板上げたんですから、このことから考えていったら、長田区、私は長田区出身ですから、長田は今、長田の再活性化のためにどうしようということ、いろんなことを考えておりますけれども、鉄人28号ですか、そういうのを売りにして看板をつくらうというようなことを言っておるんですが、例えば鉄人28号をデザインしたナンバープレートなんかつけていただいたらいかかかなと。長田の場合ですよ。そら北区なんかやったら有馬温泉をテーマにした何か考えてもらうとか、あるいは灘区行ったら都賀川の

アユが遡上してきておる姿を入れてもらうとか、何かそういうふうなことを僕してもらった方がええと思うんですよ。この道後温泉の「道後・松山市」と書いてね、坂の上の雲をデザインして、色までこれ全部違いますよ、こうして見てもうたらね。普通のナンバープレートが欲しいという人にはそれをつけてくださいと。こういうのがいい人はこういうのをどうぞ言ってくださいと。今ついておるプレートもかえてくださいと言うたらかえますと。こういうふうなこと言っておるんですが、そんなことについて、デザイン都市・神戸というのを目指しておる皆さんから見て、やってみようかなということをおもいませんか。ナンバープレート、こんなんです。

89： 深尾行財政局主税部長

深尾行財政局主税部長 まず、先生のご指摘の点の中で何点かあるんですが、1点は、9月1日から神戸市は市税事務所、市長名で集約化しましたので、もう今、すべて神戸ナンバーになってますので、区ナンバーはもうちょっと8月末で終わりましたので、やるとすれば神戸市でどうするかという点になると思います。

それから、軽自動車につきましては、今、先生のご指摘の原動機付自転車50ccで年額が1,000円ということになっておりまして、常にこれ、指定都市でも、全国的にも徴税費の関係でいろいろ議論になっております。神戸市の場合で1,000円に、ただ非常にコストがかかっているという問題があるんですが、一方で盗難バイクの関係で一定の寄与をしているということで、コストの面については1,000円でも仕方ないという状態で議論しているところがございますので、この1,000円の部分について、その特殊なデザインのプレートで経費がどうなるかとか、そんなんもいろいろ考えながら、きょう先生ご指摘の他都市のそういうデザイン都市の関連でされてますので、今後ちょっと研究はしていきたいというふうに考えております。

以上でございます

90： 委員（北山順一）

委員（北山順一） 神戸市で、もうこれから神戸市というプレートになるんだと、こういうことですから、このプレートだって「道後・松山市」と、こう書いておるんです、「道後・松山市」。だから「長田・神戸市」と、こう書いておったっていいと思うんですよ。「兵庫・神戸市」と書いとったって私は問題ないと思うんで、そういうことをいろいろ行政上の問題があるんかもわかりませんから、調べていただいて、やっぱり神戸のあのナンバーつけたいなと。鉄人のナンバーつけたいないうて、わざわざ神戸の長田へ来てつけていってもらうような、そんなこと考えていただきたいと思うんです。要望しときます。

91： 深尾行財政局主税部長

深尾行財政局主税部長 その要望ですけど、なぜ神戸にしたかということについては、どこの区役所でも同じ取り扱いできるようにと。長田やったら長田やいうたら、長田区役所に行かないとあかんという問題があったので、市民サービスの観点から、申しわけないですけど、神戸一本にした経緯がございます、例えば長田や東灘、区でしますと、その区でしか取り扱わないと。わざわざそこに行って廃車手続きせない

かんとかいろんな問題があるということの議論の結果、どこでも取り扱うということになりましたので、神戸については、いろいろちょっとご意見お伺いしましたので検討しますけど、区名は、もう今のところやめた時点でございますので、検討は今のところする予定はございませんので、それだけ申し上げておきます。

92： 委員（北山順一）

委員（北山順一） こだわるわけではありませんけれども、これはそういう行政上のいろんな問題があるんだと言ったって、解決しようと思ったら私はできる問題だと、こう思ってますよ。だから、あなたはこれではできませんという考えずに、できるんだということを前提にして考えていって、何が障害になるかということを考えるべきだと思いますので、どうぞ研究してください。

以上です。